

暗唱のすすめ 短歌二十五撰・春の歌①

いわばし たるみ うえ  
石走る垂水の上のさわらびの

も い はる  
萌え出づる春になりにけるかも

しきの みこ  
志貴 皇子

よ なか た さくら  
世の中に絶えて桜のなかりせば

はる こころ  
春の心はのどけからまし

ありわらの なりひら  
在原 業平

さと て こども  
この里に手まりつきつつ子供らと

あそ はるひ く  
遊ぶ春日は暮れずともよし

りようかん  
良寛

イ にしゃくの ばら め  
くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の

はり ワ はるさめ  
針やはらかに春雨のふる

まさおか しき  
正岡 子規

さくら いのち なが  
桜ばないのち一ぱい咲くからに

いのち  
生命をかけてわが眺めたり

おかもと こ  
岡本 かの子